

ホスピスに関係する覚え書きメモ

ホスピスの定義（全米ホスピス協会）：

ホスピスとは、末期患者とその家族を家や入院体制の中で、医学的に管理すると共に看護を主体とした継続的なプログラムをもって支えていこうとするものだ。様々な職種の専門家で組まれたチームが、ホスピスの目的のために行動する。その主な役割は、末期故に生じる症状（患者や家族の肉体的、精神的、宗教的、経済的な痛み）を軽減し、支え励ますことである。

こうした考え方を実践する場：ホスピス

タ - ミナルケア、死を看取る医学：

死を間近にした人たちの苦痛をしっかりと緩和し、精神的に支えてケアする。（人間の人生の着陸をスムーズに助けるための医学。cf. 人生への離陸である誕生には、産婦人科医等が支えている。）

ホスピスの源泉：中世のヨーロッパ、キリスト教の聖地エルサレムを訪れる途中、病気になったり、疲れはててしまった巡礼者に対して、当時の修道院が宿と食事を提供したのが始まり。

日本では、1973年、淀川キリスト教病院でホスピスケアが始まる。

ホスピスの働きが日本で初めての新聞報道：1977年

ホスピスが初めて建物として成立（聖隷ホスピス）：1981年

聖隷三方原病院でも同年ホスピスを開設。

日本緩和医療学会：1996年発足。

HOSPICE の機能：

Hospitality（親切なおもてなし） Organized Care（チームアプローチ）

Symptom Control（症状のコントロール） Psychological Support（精神的支え） Individualized care（個別性の尊重） Communication（コミュニケーション） Education（教育）

緩和医療、緩和ケア（Palliative Care - WHOによる - ）の定義：

Palliative Careとは、治癒を目的にした治療に反応しなくなった患者に対する、積極的で全人的なケアであり、痛みや他の症状のコントロール、精神的、社会的、spiritual（実存的満足）な問題のケアを優先する。

Palliative Careの目標は、患者と家族のQOLを高めることである。

Palliative Careは、疾患の初期段階において、がん治療の過程においても適用される。

要約すると、がん医療のあらゆる過程に適用される、積極的な（active）、全人的な（total）、QOLを重視した、患者と家族に対するケアということになる。

QOL：人生の中身

WHOによる Adds life to years：

その期間に質の高い生き方ができるか、どのように充実した年を重ねることができるか、という人生の中身に重要な価値をおく。

がん患者の宣告後の心理（米国の精神科医：キューブラー・ロスによる）：

否認（denial） 怒り（anger） 取引（bargaining） 抑うつ（depression） 受容（acceptance）

受容能力：

自分に不都合なことが起きた時に、その不都合さの中でも人間として生きているという証を見ることができる能力。

死別後の悲嘆のプロセス

ショックと否認 怒り 自責の念 うつ状態 受容 新しい希望

現代社会の死の姿：

家庭死から病院死へ。 交わりの死から孤独な死へ。 情緒的な死 - 悲しみの共有、体感としての死 - から科学的な死へ。 現実の死から劇的（ex. TV画面の中の死 - 虚像の世界の死 - ）な死へ。

(1947年約90%が家庭死であったが、1977年頃を境に逆転し、1995年約80%が病院死。)

現在の日本の死亡原因の約1/3が、がんによる。がん患者の95%が病院死。

死の三徴候：

呼吸が止まって、心臓が止まって、瞳孔が拡大という線としての死。

(cf . T V ドラマに描かれるような点の死ではない。)

デス・エデュケーション (死の教育) の必要性：

いつ起こるか解らない災害避難訓練は、1/年実施するなら、各自に発生率100%である死への心の準備も年一回考えよう。

安楽死：医師が、患者本人の意思に基づいて、何かを積極的に投与して死に至らしめること。

尊厳死：生命を維持するための様々な治療を中止し、患者が尊厳をもって死を迎えることができるようにすること。

慈悲殺：家族や第三者が、苦しんでいる患者に憐憫の情をいただき、早く楽にさせてあげようとして殺害すること。

参考・引用文献

柏木哲夫 (日本緩和医療学会理事長。1984、淀川キリスト病院にホスピス開設。現大阪大学人間科学部教授。): NHK ライブラリ - 「死を看取る医学 - ホスピスの現場から - 」、日本放送出版協会、1997 .

デス・エデュケーションに関する情報：「死を通して生の教育を考える研究会」、代表：中村博志 (日本女子大学児童学科教授)。

(2004 年 07 月 02 日 記)